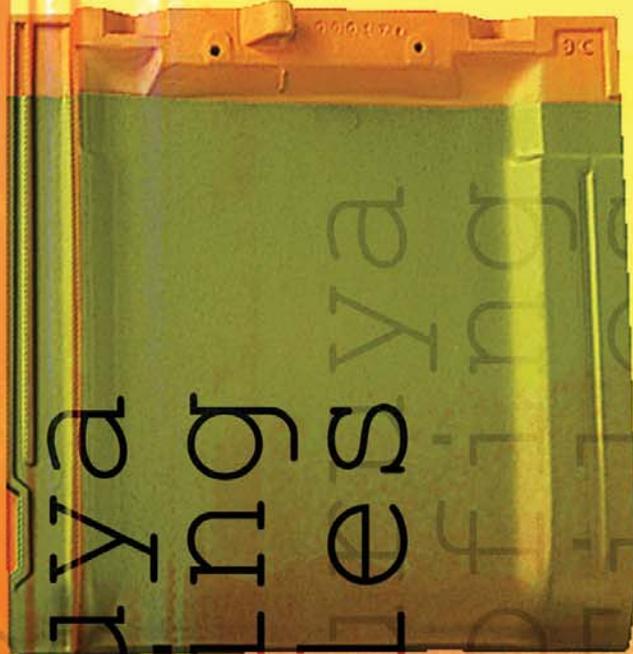


# 第41期報告書



平成19年4月1日から平成20年3月31日まで



株式会社 鶴 弥

## 会長・社長就任ご挨拶

<経営理念>

強く美しく、取り扱いやすく。  
値打ちて、より安全な。  
粘土瓦を提供する。



代表取締役会長 鶴見 栄



代表取締役社長 鶴見 哲

株主各位

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご高配をいただき厚く御礼申し上げます。

さて、私儀、このたび代表取締役会長に就任することとなりました。

社長在任中は公私共に格別のご懇情を賜り、誠に有難く厚く御礼申し上げます。これからも、後進の指導と社業の興隆のために努力いたす所存であります。今後とも倍旧のご厚情を賜りますよう、衷心お願い申し上げます。

なお、後任の社長には前代表取締役専務 鶴見哲が就任いたしましたので、私同様、ご鞭撻とご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

敬具

株式会社 鶴弥

代表取締役会長 鶴見 栄

私儀、取締役会において選任され、鶴見栄の後任として、平成20年6月1日をもちまして代表取締役社長に就任することとなりました。

もとより、微力の身ではございますが、先輩方が瓦業界に卓越した経営手腕を發揮され、営々と築き上げてきた経営基盤を継承し、今後は責任の加重されたことを痛感し、非才に鞭打って社業の発展と企業価値の向上に努力いたす覚悟でございます。

つきましては微力ながら全力を傾注し新任務に精励いたす所存でございますので前社長同様ご厚誼を賜りますようお願い申し上げます。

敬具

株式会社 鶴弥

代表取締役社長 鶴見 哲

## 経営に関するQ&A

### ◆ 鶴弥における今後の課題とその対策についてお聞かせ下さい。

当期における瓦業界を取り巻く環境としましては、さらなる燃料費の高騰や資材価格の上昇、改正建築基準法の施行に伴う住宅着工の遅れ等により大変厳しい年となりました。当社におきましては、生産設備の一部自動化や新たに増設した阿久比工場第3ラインの低燃費焼成設備の導入などでコストダウンを図ってまいりましたが、自助努力の範囲を超える燃料費の高騰により減益となりました。一方、売上高につきましても、平成19年10月に最終製品価格の値上げを行ったものの、住宅着工戸数の落ち込みによる市場縮小に伴う出荷減により減収となりました。

また、ご承知の通り、既に当業界は再編の時期を迎えており、当期における経営環境の悪化は中小の同業他社を安易な価格競争へと向かわせ、それによって更なる経営悪化を招くという悪循環に陥っております。さらに、それが業界全体へ波及しつつあり、混沌とした局面を迎えております。

このような状況下におきまして、当社は、この局面を好機ととらえ、販売網の拡大を進めるとともに、不安定な燃料価格の影響を低減し、より確実な収益基盤を構築するために経費削減や既存設備の効率的な運用によるコスト削減対策を実施、また製品品質の向上、市場動向にマッチした多様な新製品の開発の迅速化に努めるとともに、今後市場拡大の見込まれるリフォーム市場の開拓を図ってまいりたいと考えております。

### ◆ 環境対策についてお聞かせ下さい。

企業は、市民としての事業活動を通じて社会との協調のもとで持続的に発展し、同時にそういった社会と協調した事業活動が、企業と社会の相乗的な発展に資するとの考え方から、昨今特に企業の社会的貢献が求められており、とりわけ環境問題に対しては、「気候変動に関する国際連合枠組条約の京都議定書」をはじめとした、さまざまな枠組み作りが国際的に進んでおります。

当社は、元来環境負荷の高い窯業を主たる事業活動としており、環境対策を進めることが企業としての社会的責任であると考え、排水の再利用や、規格外製品の再利用といった工場の生産活動における環境負荷の低減を行ってまいりました。さらに、最近では施工現場における廃材の削減や廃材を利用した二次製品の開発、また当期には地球温暖化対策に効果が期待されている太陽光エネルギー高反射瓦「サマースノーシリーズ」の販売を開始しております。今後も当社は、事業活動そのものの環境負荷の低減を図るとともに、環境面に配慮した製品の開発に努めていく所存であります。

# トピックス

## 1. 第1回施工写真コンテスト2007開催



### ▲最優秀賞

スーパーライ110サンレイ  
ティエライエロー、ティエラホワイト



### ▲優秀賞

J形防災瓦エース  
銀鱗、銀黒、マットブラック



### ▶リフォーム賞

J形防災瓦エース  
銀鱗



### ▲入選

スーパーライ110タイプII  
青磁

平成19年6月～平成20年2月にかけて「第1回施工写真コンテスト2007」を開催いたしました。

好評をもちまして無事終了し、厳正なる審査の結果、最優秀賞1点、優秀賞3点、リフォーム賞2点、入選10点、審査員賞4点を選ばせていただきました。

本年も引き続き「第2回施工写真コンテスト2008」を開催しております。

## 2. 会社組織を変更しました

当社は、平成20年6月1日付をもって新社長就任に伴い、次のように組織変更を行い、今後の経営戦略のさらなる発展と、組織運営の効率化を図ってまいります。

- ・営業開発部を発展的に解消し、新製品開発を中心とした「開発室」と、新規事業開発(リフォーム事業、リサイクル事業等)を中心とした「事業開発室」を新設いたしました。
- ・製造本部制を廃止し、経営トップの意思決定がより迅速に反映できる生産体制の整備を図りました。

## 3. 名証IRエキスポ2008に出展



▲名証IRエキスポ  
会場全景

当社は、今年も(株)名古屋証券取引所が主催する「名証IRエキスポ2008」に出展いたします。当社ブースへのご来場を心からお待ちいたしております。

### 〈開催概要〉

日 時：平成20年7月18、19日(金、土) 10時00分～17時00分

場 所：名古屋市中小企業振興会館(吹上ホール)

申込方法：ご入場には事前登録が必要となります。

詳しくは下記へお問い合わせ下さい。

連 絡 先：名証IRエキスポ事務局(名古屋証券取引所内)

〒460-0008 名古屋市中区栄三丁目8番20号

T E L：052-262-3207

U R L：[http://www.nse.or.jp/ir\\_expo/2008/investor/index.html](http://www.nse.or.jp/ir_expo/2008/investor/index.html)

## 製品・商品紹介

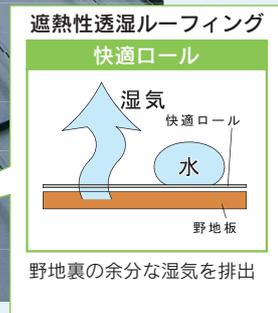
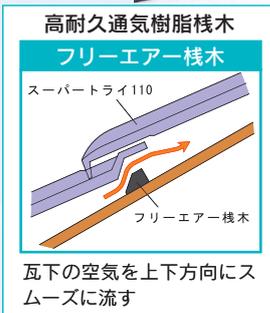
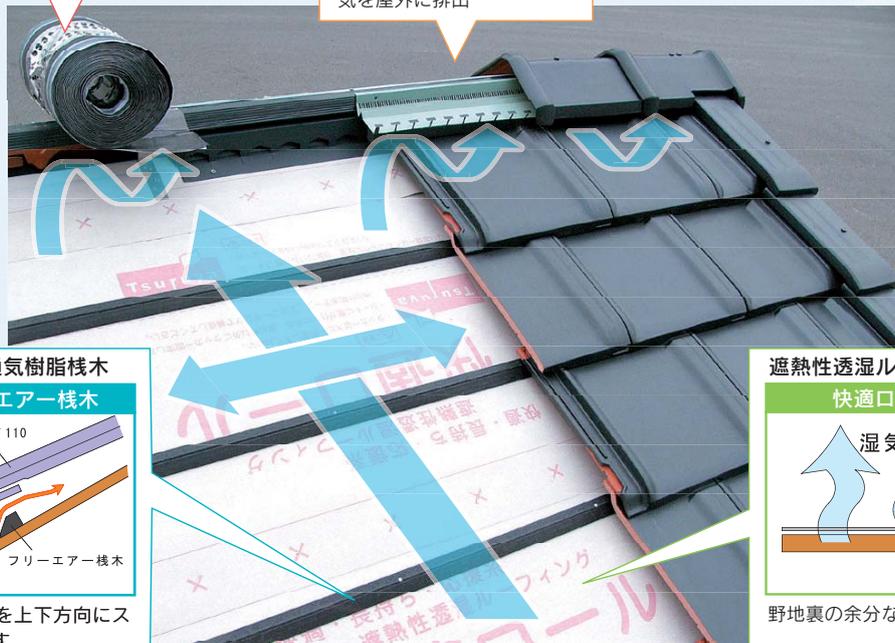
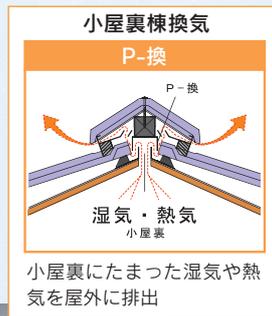
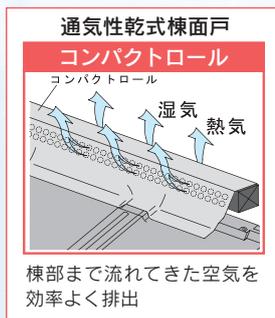
### 『フリーエアー工法』

当社製品の陶器瓦は、高い耐久性を持っていることは良く知られていますが、屋根全体の耐久性をさらに高める屋根システム「フリーエアー工法」を、平成20年3月に発売いたしました。

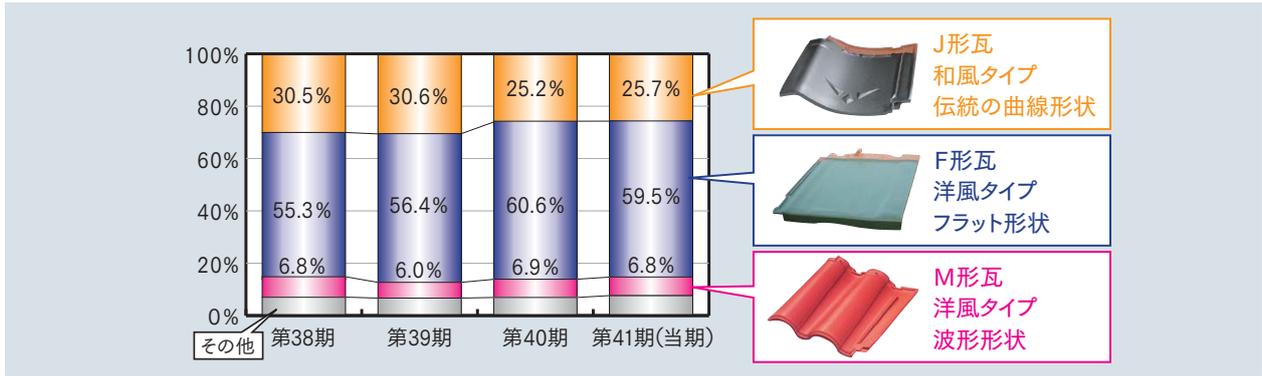
瓦下の「湿気」「熱気」を速やかに排出する屋根下地システムであり、今後住宅に求められる耐久性向上にも寄与する商品です。

#### ●『フリーエアー工法』4つの部材

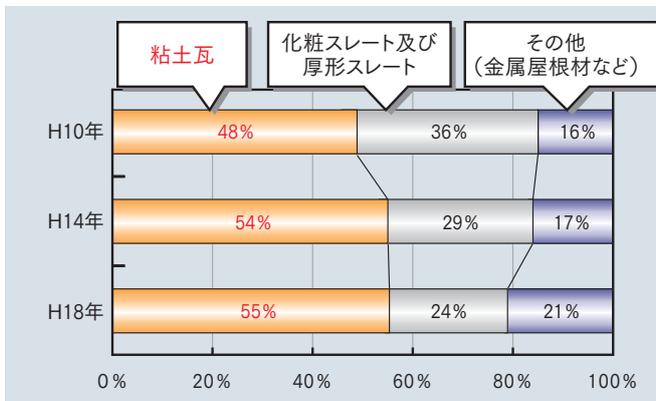
4つの部材をうまく組み合わせて、屋根下地や小屋裏を常に健康な状態に保つ屋根下地システムです。湿気や熱による劣化を防ぎ、屋根を健全な状態で維持させることにより、屋根の耐久性を高めることができます。またそれぞれの部材も高耐久仕様になっているので屋根全体の耐久性を上げることができます。



## 品目別売上高構成比の推移



## 屋根材業界・粘土瓦業界・当社販売シェアの動向

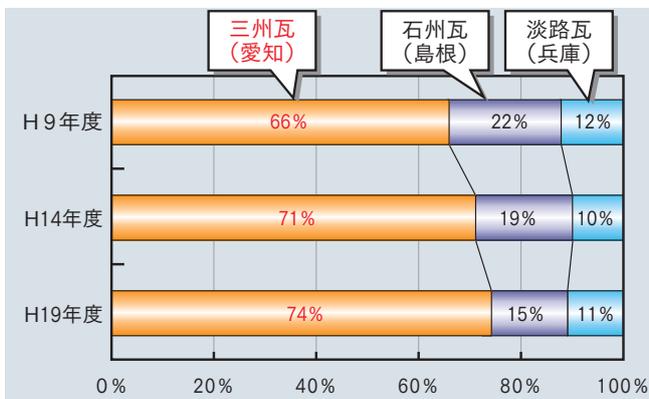


### 屋根材別シェア

#### …粘土瓦の採用増加

- ・メンテナンスフリー(耐久性)
- ・本物指向
- ・洋風住宅化への適応
- ・大手ハウスメーカー等の採用
- ・工期短縮と生産性向上によるコストダウン

※資料 日本屋根経済新聞  
※各統計期間は1月～12月

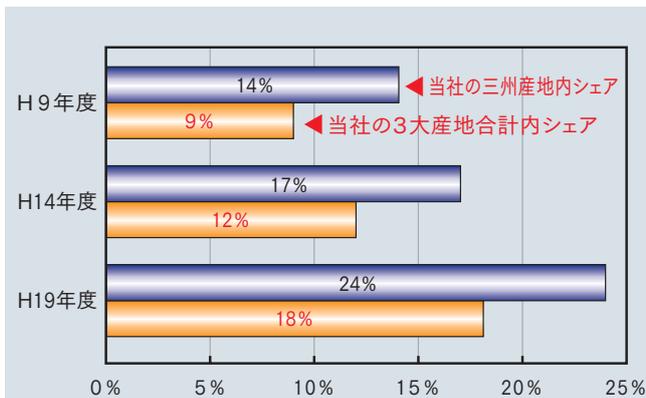


### 粘土瓦3大産地別シェア

#### …三州ブランドの続伸

- ・愛知県初の地域ブランド商標に認定
- ・良質な粘土が近隣に豊富
- ・好立地、企業集中
- ・国内輸送集中→帰り便の活用
- ・製品開発力、技術力
- ・原材料業者、設備メーカーの集中による協力体制

※資料 愛知県陶器瓦工業組合  
石州瓦工業組合、淡路瓦工業組合



### 当社販売シェア

#### …更なる拡大へ

- ・防災瓦の認知と全国販売網
- ・コスト競争力、業界一の生産力
- ・品揃え、出荷体制の充実化
- ・ハウスメーカー等の採用増加

※資料 愛知県陶器瓦工業組合  
石州瓦工業組合、淡路瓦工業組合

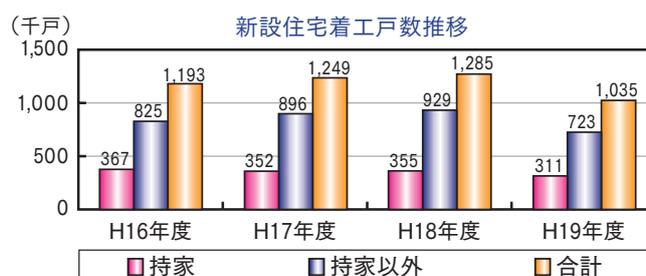
# 株式会社の現況に関する事項 (平成19年4月1日から平成20年3月31日まで)

## 1. 当事業年度の事業の状況

### (1) 事業の経過及び成果

当事業年度におけるわが国の経済は、上半期においては欧米・アジア向けの輸出増加や旺盛な設備投資等に支えられ緩やかな景気拡大が続きましたが下半期における米国サブプライムローン問題が原油高・資源高とともに米国景気の後退懸念、ひいてはわが国経済に悪影響をもたらす予断を許さない状況になってまいりました。

当業界におきましても、粘土瓦需要動向を大きく左右する新設住宅着工戸数が建築基準法改正による影響と消費者の金利動向等の様子見による心理的不安要因が重なり、新設住宅着



(資料：建設物価調査会 住宅着工統計より)

工戸数が41年ぶりの低水準に落ち込み、出荷が停滞し、併せて予想を超えた燃料価格の急騰・同業者のF形瓦増産設備投資により熾烈な価格競争となり企業間競争は一層激化し、撤退を余儀なくされた同業者も出始めてまいりました。

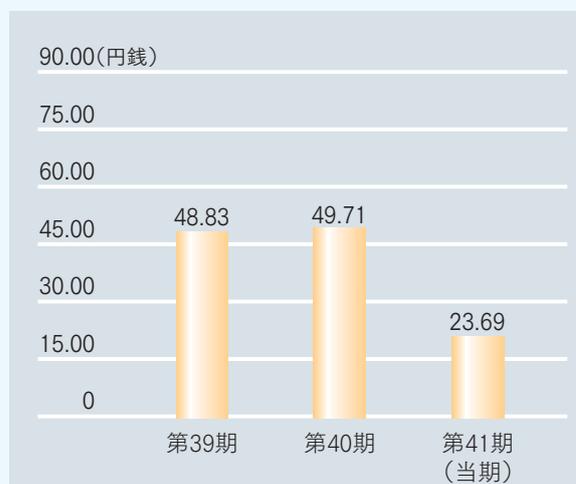
このような情勢下、当社は、住宅の洋風化が益々顕著に推移する中、「スーパートライ110」の慢性的な在庫不足の解消と、燃料コストの低減を目的とした最新鋭のF形専焼ラインとして平成19年4月に新設した阿久比工場第3ラインを本格的に稼働させ、製品の品揃え、燃料コストの削減に努めてまいりました。

利益面におきましては、建築基準法改正の影響をうけ新設住宅着工戸数の大幅な減少による同業者間の熾烈な価格競争に伴う販売の低迷と予想を超えた燃料価格の急騰・出荷停滞に伴う生産設備の稼働率低下等による製造コスト上昇によって売上総利益率が

## 売上高



## 1株当たり当期純利益



前期対比3.4ポイント低下いたしました。

この結果売上高は11,648百万円(前期比4.0%減)営業利益531百万円(前期比51.4%減)経常利益340百万円(前期比66.7%減)当期純利益183百万円(前期比47.5%減)となりました。

## (2) 設備投資の状況

当事業年度に実施しました設備投資の総額は、895百万円であります。阿久比工場第3ライン(F形防災瓦専焼ライン)の設備新設(866百万円)が主たるものであります。

## (3) 資金調達の状況

当事業年度における増資あるいは社債の発行はありません。

設備資金は、金融機関の借入金等で調達しております。

## 2. 直前3事業年度の財産及び損益の状況

区 分		第38期	第39期	第40期	第41期(当期)
		平成17年3月期	平成18年3月期	平成19年3月期	平成20年3月期
売 上 高	百万円	11,269	12,289	12,133	11,648
当 期 純 利 益	百万円	394	339	350	183
1株当たり当期純利益	円	59.61	48.83	49.71	23.69
総 資 産	百万円	18,430	19,343	21,113	19,948
純 資 産	百万円	7,269	8,210	9,062	9,045
1株当たり純資産額	円	1,158.10	1,176.93	1,168.25	1,165.94

- (注) 1. 純資産については、第40期から、「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準」(企業会計基準第5号平成17年12月9日)及び「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準等の適用指針」(企業会計基準適用指針第8号 平成17年12月9日)を適用しております。
2. 第41期(当事業年度)の事業の状況につきましては、前記7頁の「事業の経過及び成果」とおりであります。

### 経常利益／当期純利益



### 総資産／純資産



### 3. 重要な親会社及び子会社の状況

該当事項はありません。

### 4. 対処すべき課題

当社は、対象期間を3年間(平成19年4月1日から平成22年3月31日まで)の中期経営計画を策定いたしております。この中期経営計画では、基本戦略を「粘土瓦の製造販売の更なる拡大とコア事業周辺分野への挑戦」に定め、この基本戦略に沿った事業運営を行い、企業価値の一層の向上に全社一丸となって努力いたします。

具体的な本年度の戦術としては、以下に示すとおりであります。

- ① 需要構造の変化に対応した製品のバリエーションの拡充
- ② F形防災瓦「スーパートライ110」及びM形防災瓦「スーパートライサンレイ」の拡販
- ③ J形瓦の需要減少傾向に対処するためJ形防災瓦「スーパーエース」の拡販
- ④ リフォーム事業への注力
- ⑤ 製品開発の迅速化
- ⑥ 産業廃棄物となる製品ロスの削減及びロス品の有効利用
- ⑦ 物流部門の充実(出荷体制の更なる強化)
- ⑧ 固定費の削減及び業務の効率化によって、市場競争に耐え得るコスト体質の実現を図るための業務システムの再構築及び管理機構のスリム化
- ⑨ 与信管理体制の見直し及び周知徹底

具体的な取組状況として、新製品開発、新規事業開発を加速させるため、平成20年6月より「開発室」と「事業開発室」を新設し、コア事業周辺分野への進出を図っております。また、全体的なコスト意識の徹底に努め、コスト削減対策を継続して実施していきます。

#### 自己資本当期純利益率(ROE)



#### 1株当たり配当金／配当性向



注) 1株当たり当期純利益・自己資本当期純利益率・1株当たり配当性向につきましては、第39期、第40期ともに公募増資後の株式数等に基づき算出しております。

# 貸借対照表

(単位:千円)

科 目	期 別	前 期 (平成19年3月31日現在)	当 期 (平成20年3月31日現在)
<b>(資産の部)</b>			
<b>流動資産</b>			
現金及び預	金	1,509,795	657,033
受取手	形	1,412,421	427,495
売掛	金	1,292,500	1,188,811
商	品	69,628	64,772
製	品	1,810,764	2,308,183
原材	料	37,107	31,049
仕掛	品	50,925	55,349
未成工事支出	金	1,020	1,836
貯蔵	品	125,077	144,045
繰延税金資産	資産	135,969	101,509
前払費	用	31,356	30,061
その	他	17,605	105,707
貸倒引当金	金	△ 78,219	△ 55,219
流動資産合計		<b>6,415,952</b>	<b>5,060,636</b>
<b>固定資産</b>			
<b>有形固定資産</b>			
建	物	1,515,433	2,032,855
構	物	280,303	310,794
機	置	1,354,775	2,397,260
車	具	53,897	48,819
工	品	190,752	229,657
土	地	9,163,376	9,163,376
建	定	1,403,062	41,277
有形固定資産合計		<b>13,961,601</b>	<b>14,224,042</b>
<b>無形固定資産</b>			
特	権	2,500	1,875
ソ	ア	16,027	13,914
電	権	3,301	3,129
水	権	3,846	7,606
無形固定資産合計		<b>25,675</b>	<b>26,525</b>
<b>投資その他の資産</b>			
投	券	389,079	249,979
関	株	10,000	10,000
出	金	27,180	27,680
長	金	127,852	105,300
破	等	37,465	24,999
長	用	10,960	16,490
繰	産	123,265	197,746
保	金	57,928	57,814
保	金	147,786	149,396
貸	金	△ 221,619	△ 202,527
投資その他の資産合計		<b>709,897</b>	<b>636,879</b>
固定資産合計		<b>14,697,174</b>	<b>14,887,447</b>
<b>資 産 合 計</b>		<b>21,113,126</b>	<b>19,948,083</b>

(単位:千円)

科 目	期 別	前 期 (平成19年3月31日現在)	当 期 (平成20年3月31日現在)
<b>(負債の部)</b>			
<b>流動負債</b>			
支払手形		2,600,482	1,349,858
買掛金		565,406	401,772
短期借入金		5,300,000	5,300,000
1年以内返済予定の長期借入金		692,000	458,000
未払金		83,287	36,954
未払費用		486,398	380,288
未払法人税等		231,401	44,957
未払消費税等		21,973	—
前受金		88,346	27,690
預り金		30,855	13,218
賞与引当金		202,136	192,757
役員賞与引当金		23,540	—
設備関係支払手形		630,746	66,465
流動負債合計		<b>10,956,574</b>	<b>8,271,964</b>
<b>固定負債</b>			
長期借入金		399,000	1,930,000
退職給付引当金		69,903	63,214
役員退職慰労引当金		619,724	629,726
その他		5,000	8,164
固定負債合計		<b>1,093,627</b>	<b>2,631,104</b>
負債合計		<b>12,050,201</b>	<b>10,903,069</b>
<b>(純資産の部)</b>			
<b>株主資本</b>			
資本金		<b>2,144,134</b>	<b>2,144,134</b>
資本剰余金			
資本準備金		2,967,134	2,967,134
その他資本剰余金		57	57
資本剰余金合計		<b>2,967,191</b>	<b>2,967,191</b>
<b>利益剰余金</b>			
利益準備金		110,163	110,163
その他利益剰余金			
特別償却準備金		24,205	15,440
固定資産圧縮積立金		22,444	21,891
別途積立金		2,050,000	2,050,000
繰越利益剰余金		1,642,514	1,699,875
利益剰余金合計		<b>3,849,327</b>	<b>3,897,371</b>
自己株式		<b>△ 5,703</b>	<b>△ 5,703</b>
株主資本合計		<b>8,954,949</b>	<b>9,002,992</b>
<b>評価・換算差額等</b>			
その他有価証券評価差額金		107,975	42,021
純資産合計		<b>9,062,924</b>	<b>9,045,014</b>
負債・純資産合計		<b>21,113,126</b>	<b>19,948,083</b>

# 損益計算書

(単位:千円)

科 目	期 別	前 期	当 期
		( 自平成18年4月1日 至平成19年3月31日 )	( 自平成19年4月1日 至平成20年3月31日 )
売上高		12,133,039	11,648,636
売上原価		9,051,902	9,085,240
売上総利益		3,081,137	2,563,396
販売費及び一般管理費		1,988,487	2,032,296
営業利益		1,092,649	531,100
営業外収益		42,181	57,194
営業外費用		111,909	247,866
経常利益		1,022,921	340,427
特別利益		3,081	32,305
特別損失		26,685	18,908
税引前当期純利益		999,317	353,825
法人税、住民税及び事業税		441,907	135,997
法人税等調整額		207,304	34,024
当期純利益		350,105	183,803

# 株主資本等変動計算書 (平成19年4月1日から平成20年3月31日まで)

(単位:千円)

	株 主 資 本											
	資本金	資 本 剰 余 金			利 益 剰 余 金	利 益 剰 余 金					自 己 株	株 主 本 計
		資 本 準 備 金	そ の 他 資 本 剰 余 金	資 本 剰 余 金 合 計		そ の 他 利 益 剰 余 金						
						特 別 償 却 準 備 金	固 定 資 産 圧 縮 積 立 金	別 途 積 立 金	繰 上 利 剰 余 金	越 益 剰 余 金		
平成19年3月31日残高	2,144,134	2,967,134	57	2,967,191	110,163	24,205	22,444	2,050,000	1,642,514	3,849,327	△5,703	8,954,949
当期変動額												
特別償却準備金の取崩						△8,764			8,764	-		-
固定資産圧縮積立金の取崩							△552		552	-		-
剰余金の配当									△135,759	△135,759		△135,759
当期純利益									183,803	183,803		183,803
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)												
当期変動額合計	-	-	-	-	-	△8,764	△552	-	57,361	48,043	-	48,043
平成20年3月31日残高	2,144,134	2,967,134	57	2,967,191	110,163	15,440	21,891	2,050,000	1,699,875	3,897,371	△5,703	9,002,992

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
平成19年3月31日残高	107,975	107,975	9,062,924
当期変動額			
特別償却準備金の取崩			-
固定資産圧縮積立金の取崩			-
剰余金の配当			△135,759
当期純利益			183,803
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	△65,954	△65,954	△65,954
当期変動額合計	△65,954	△65,954	△17,910
平成20年3月31日残高	42,021	42,021	9,045,014

(注) 記載金額は、千円未満の端数を切り捨てて表示しております。

## 株式の状況 (平成20年3月31日現在)

### ○ 株式数及び株主数

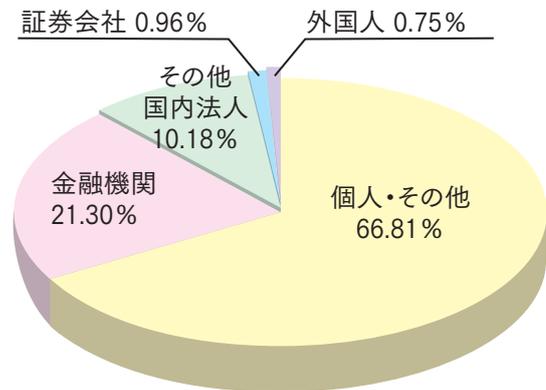
発行可能株式総数…………… 25,000,000株  
 発行済株式の総数…………… 7,767,800株  
 当事業年度末の株主数…………… 2,987名  
 自己株式の保有数…………… 10,099株

### ○ 大株主 (上位10名)

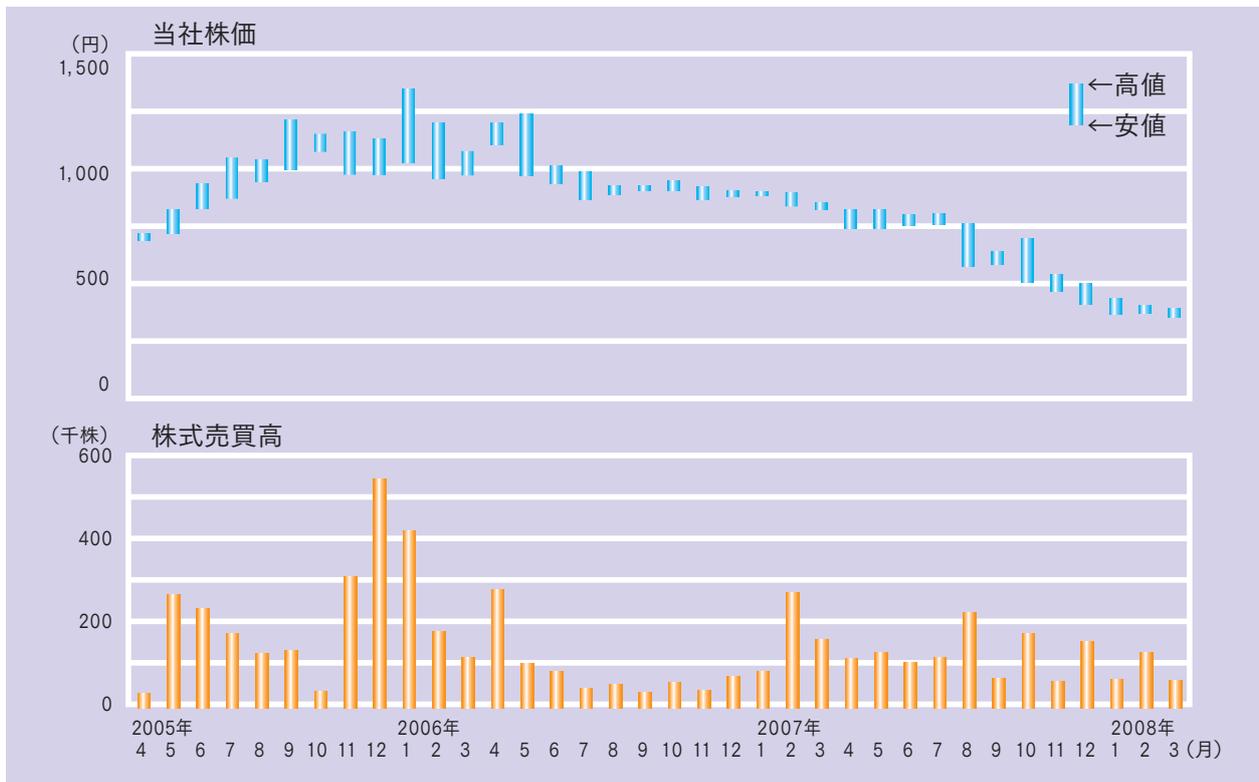
株主名	当社への出資状況	
	持株数(千株)	出資比率(%)
鶴見 哲	1,551	19.9
有限会社トライ	560	7.2
株式会社三菱東京UFJ銀行	310	4.0
株式会社みずほ銀行	310	3.9
商工組合中央金庫	308	3.9
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	191	2.4
鶴見 栄	140	1.8
鶴見 日出雄	132	1.7
岡崎信用金庫	132	1.7
細井 芳美	132	1.7

(注) 出資比率は、自己株式を除く発行済株式総数に対する持株数の割合であります。

### ○ 所有者別分布状況



### ○ 株価・株式売買高の推移



## 会社の概要 (平成20年3月31日現在)

商号 株式会社 鶴弥  
 TSURUYA CO., LTD.  
 本社 愛知県半田市州の崎町2番地12  
 TEL (0569)29-7311(代表)  
 設立 昭和43年2月  
 事業内容 陶器瓦の製造及び販売  
 屋根工事の請負及び施工  
 屋根資材の販売  
 上記に付帯関連する一切の事業  
 資本金 2,144,134,000円  
 発行済株式総数 7,767,800株  
 従業員数 494名(社外からの出向者を含む)

## 事業所

本社及び本社工場  
 〒475-8528 愛知県半田市州の崎町2番地12  
 衣浦工場  
 〒475-0032 愛知県半田市潮干町1番地1  
 西尾工場  
 〒444-0325 愛知県西尾市楠村町南浜屋敷16番地1  
 阿久比工場  
 〒470-2215 愛知県知多郡阿久比町大字矢高字西の台1番地1  
 丸福支店  
 〒939-1554 富山県南砺市安居298番地  
 仙台営業所  
 〒983-0002 宮城県仙台市宮城野区蒲生2丁目29番地3

## 役員 (平成20年6月26日現在)

代表取締役会長	鶴見 栄
代表取締役社長	鶴見 哲
取締役	白井 義春
取締役	山内 浩一
取締役	神谷 秀夫
取締役	榎本 守
取締役	小久江 善一
常勤監査役	近藤 和敏
常勤監査役	住友 暉男
監査役	北折 義孝
監査役	鶴見 恒夫

(注1) 現常勤監査役近藤和敏氏は、平成20年6月末日辞任予定であります。  
 (注2) 監査役住友暉男氏及び鶴見恒夫氏は、社外監査役であります。

## 当社ホームページのご案内



当社ではホームページにて当社の企業情報を随時開示しています。

IR情報のサイトでは決算短信等がご覧いただけます。

<http://www.try110.com>

## 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会の議決権 3月31日 期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日
公告方法	電子公告によります。ただし、電子公告によることができない事故 その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載い たします。
公告のホームページアドレス	<a href="http://www.try110.com">http://www.try110.com</a>
株主名簿管理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
同事務取扱場所	名古屋市中区栄三丁目15番33号 中央三井信託銀行株式会社 名古屋支店 TEL (0120) 78-2031 (フリーダイヤル)
同 取 次 所	中央三井信託銀行株式会社 本店及び全国各支店 日本証券代行株式会社 本店及び全国各支店
単 元 株 式 数	100株

---

### (お知らせ)

住所変更、単元未満株式買取請求、名義書換請求及び配当金振込指定に必要な各用紙のご請求は、  
下記株主名簿管理人中央三井信託銀行株式会社のフリーダイヤルまたはホームページをご利用下さい。

●フリーダイヤル (0120)87-2031(24時間受付:自動音声案内)

●ホームページ [http://www.chuomitsui.co.jp/person/p\\_06.html](http://www.chuomitsui.co.jp/person/p_06.html)